

令和7年度 梅香中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和7年度 梅香中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア	
			国語	数学	国語	数学	理科	
3年	学校	176	53	44	6.6	11.0	学校	469
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市	489
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	179	64.5	48.9	49.3	40.7	50.3	6.0	6.2	13.1	11.6	6.8
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
9月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4
2年	学校	166	61.0	43.2	50.5	40.3	48.5	8.0	6.9	13.9	7.4	8.3
	大阪市	—	65.2	45.0	56.0	40.3	52.4	6.6	5.6	10.3	4.2	6.9
1月14日	大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	7.3	6.3	11.7	5.0	7.6
1年	学校	164	62.9	57.3	56.2	50.1	65.2	8.2	4.0	5.3	2.5	3.7
	大阪市	—	63.3	58.3	58.3	63.0	66.5	9.1	3.0	7.6	3.7	4.1
1月14日	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.2	10.2	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は物理的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はB問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
			【リーディング】	【リスニング】	【ライティング】	【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3年	学校	166	109.6	105.9	132.3	90.5
10月22日	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
	203	(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2年 男子	学校	26.61	25.27	40.22	48.49	79.97		8.09	197.01	18.64	39.17
	大阪市	28.65	26.89	43.47	51.80	80.14	425.49	8.06	195.02	20.28	41.69
	全国	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82	409.25	8.00	197.51	20.74	42.20
2年 女子	学校	22.66	21.15	43.47	44.21	53.42		9.00	172.06	12.42	47.12
	大阪市	23.12	22.70	46.32	46.59	53.12	318.64	9.03	166.76	12.20	48.14
	全国	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60	309.66	8.97	166.44	12.43	47.58

令和7年度 梅香中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞ 平均正答率が全国と比較して1.3%下回っているが市と比較して1%上回った。平均無回答率が全国と比較して0.1%、市と比較して0.2%上回っている。学習指導要領の内容 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと においては、全国と比較して大きく上回っており、努力がみられる。平均無回答率においても全国を上回っており、問題を読み解き理解する力があると思われる。

＜数学＞ 平均正答率が全国と比較して4.3%、市と比較して2%下回っている。平均無回答率が全国と比較して0.4%、下回っているが市と比較して0.2%上回った。学習指導要領の内容については、全国と比較していずれも下回る結果となったが C 関数 においては、わずかな差となっており、問題を図や式に置き換える力が身に付きつつある。

【今後に向けて】

＜国語＞ 昨年度チャレンジテスト結果より知識及び技能の2つの事項において府平均よりも高い数値である反面、課題:思考・判断・表現の項目が全体的に平均を下回っていることがわかった。この結果から記述を解く練習を重点的に行い、わからなくても埋める努力ができるよう指導を行ってきた。また、古典の単語の定着を行ってきた。授業規律を守り、生徒の学力向上に向けた授業改善に向けた取組として、作品の内容や構成、表現上の特色を踏まえ、自分の考えを書く理由や力をつけさせる。自分の考えが相手に効果的に伝わるように書くために、根拠を示し筋道立てて書く方法や、根拠に説得力をもたせて述べる方法等の指導に注力する。

＜数学＞ 昨年度チャレンジテストの結果から情報が多くなる問題での失点が目立った。、試験範囲が広がると点数が大きく落ちる生徒が増加傾向にあるので、基本的な演習を十分にすることが必要である。また、数学的活動の一層の充実を図るために、日常の事象や社会の事象から問題を見だし解決する活動、数学の事象から問題を見だし解決する活動、数学的な表現を用いて説明し伝え合う活動の指導に力を入れる。また、「主体的・対話的で深い学び」の授業展開において、生徒の「問い」を重視し、その問いを学級全体で解決し、さらに新たな問いに向かう、ような学ぶ生徒の姿をつくる。

○チャレンジテスト 3年

＜国語＞ 言語に関することは大阪府の平均を0.3ポイント超えている。大まかな読み取りや漢字、基本的な文法事項などはできているが、細かい要約力は大阪府全体を見てもあまりできていないので、書くための授業を増やしていきたい。

＜社会＞ 単元ごとにまとめとして「書く」領域での課題を出しているのだが、いきなりおおい分量での課題が多いので、少ない分量からステップアップさせる方法で力をつけさせていきたい。

＜数学＞ ほぼすべての小問で府平均を下回る数字となった。特に関数分野や、基本的な因数分解等でも失点が目立った。

＜理科＞ 設問別調査結果より、1年時に学習した地学分野の理解度が低く、知識として習得が不十分である。

＜英語＞ 無回答率が大阪府平均を下回った。同様に、昨年度よりも下回った。意欲的に取り組んでいる。領域別では、「聞くこと」「読むこと」が大阪府平均に少し近づいたが、「書くこと」に課題が残る。

【今後に向けて】

＜国語＞ 単元ごとにまとめとして「書く」領域での課題を出しているのだが、いきなりおおい分量での課題が多いので、少ない分量からステップアップさせる方法で力をつけさせていきたい。

＜社会＞ ・知識、技能を養うドリル学習を重点的に行う。

・入試に向けて記述問題のドリル学習を行う。

＜数学＞ 対策が弱かったので、単元を進めるだけでなく、その合間で復習をしていく必要がある。また、1、2年における既習分野で3年の内容と関係が希薄な分野も演習する必要がある。

＜理科＞ 3年時の今後の授業において、復習する機会を設けることで知識習得を図る。

＜英語＞ 意欲が結果につながるよう、文法の基礎・基本を固め、問題に取り組める内容を増やす。また、自分の意見を英文で書けるよう、「書くこと」に抵抗をなくす取り組みを行う。

令和7年度 梅香中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

2年 チャレンジテスト

<国語>

府平均より3.5ポイント下回った。「我が国の言語文化に関する事項」と「話すこと聞くこと」に課題がある。語彙力の低下には著しいものがあり、様々な分野の文章を多く読む必要性を感じる。活字に触れ、書写や音読に力を入れる。

<社会>

府平均44.3に対し、本校は43.2点。-0.9点であった。分野別では、歴史は府平均を上回っている。また、短答式や記述式では、府平均を上回っているか同じであり成果が見られる。課題は地理的分野の知識・技能である。

<数学>

全体的に、府平均の回答率を下回っている項目が多かった。特に、説明した自称を用いて、条件を満たす値を求めることができるかの設問、図形の証明では大きく下回った。

<理科>

選択式の問題が大阪市の平均点と一番離れていた。理科の語句を覚えていなかったり、基礎的なところの理解が不十分であると考えられる。

<英語>

大阪府平均51.8に対し、本校は48.5で、-3.3であった。
英単語を書く問題の無回答率が30%以上の問題もある。

今後に向けて

<国語>

「書くこと」は府平均と僅差だが、「話すこと聞くこと」が弱い。次年度はその分野へ重点的に注力し、府平均との差を縮める。

<社会>

地理的分野は1年生の4～10月と2年生の4～10月に履修している。1月実施のチャレンジテストまでに忘れてしまっているのでは？と思われる。復習が不十分であったため、定期的に小テストを行う等、復習の機会を設ける。

<数学>

全体的に、府平均の回答率を下回っている項目が多かった。特に、説明した自称を用いて、条件を満たす値を求めることができるかの設問、図形の証明では大きく下回った。

<理科>

基礎学力の定着に向けて、前回の授業を振り返る時間を設ける。

<英語>

読む・聞くについて到達度は高いが、ライティングに課題がある生徒が多いため、練習時間を多く取りたい。

令和7年度 梅香中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

1年チャレンジテスト

<国語>

全体的に読解問題が正答率も高く、中でも語彙の問題は非常に正答率が高かった。日々の小テストを継続してきた成果だと考える。課題としては、「書くこと」の論点整理を中心として要約する力であり、授業の中で「書くこと」の言語活動を充実させる必要がある。

<社会>

大阪市平均より-1ポイントであった。ここ数年の生徒と比較して学力が低く、もう少し苦戦を予想していたが思ったよりいい結果であった。思考判断表現の部分が大阪市平均より低く、来年度以降も課題となってくるので、授業やテストなどで対策が必要になる。

<数学>

大阪府平均から-0.5点の結果となった。負の数のある累乗の計算や、分配法則を用いた計算が大阪府の正答率を大きく下回ってしまった。「関数」の領域では大阪市平均より0.2点上回ることができた。また、無回答率が5.3と大阪府の平均よりもかなり減らすことができた。

<理科>

記述問題の正答率において、大阪市の平均を上回ることができた。しかし、短答問題の正答率において、大阪市の平均を大きく下回ることになった。普段の授業で、資料を読み取り、まとめて、自分の考えを書く練習を行っているので記述問題に対するの苦手意識を取り除くことができたと考えられる。基礎的な知識の定着はまだこれからであるといえる。授業やテストでの対策が必要であるといえる。

<英語>

大阪府の平均から±0点の結果であった。読む力は0.4点低く、書く力は0.6点高かった。また記述式の設問は得点率が大阪府の平均より2.5%高かったが、選択式の設問は5%も低い。注意のない生徒が多く、正確に読み取ることに課題があるとみられる。

今後に向けて

<国語>

国語力向上に向けて、その土台となる基礎基本の徹底

・継続した短い文章を書く ・語彙力を向上させる ・書いた文章を互いに評価しあう。

<社会>

複文型の問いに慣れることが大切である。特に授業やテストなどで資料を読み取るなど、読解力を意識して教科実践に取り組んでいく。

<数学>

全体の範囲で見ると、「思考・判断・表現」では大阪府と大きくは変わらないが、「知識・技能」の特に計算の範囲で下回ってしまった。そのため、今後も授業の毎時間計算問題を解かせる時間を設定し、演習量を増やす必要がある。

<理科>

理科に対する苦手意識がまだまだあるように思えるので、白ブリや小テストなどに取り組む必要がある。授業や課題で取り組みたい。

<英語>

授業で初見の読み物に取り組む時間を与える。家庭学習課題を毎週与え、定期テスト後の再テストの回数を増やす。

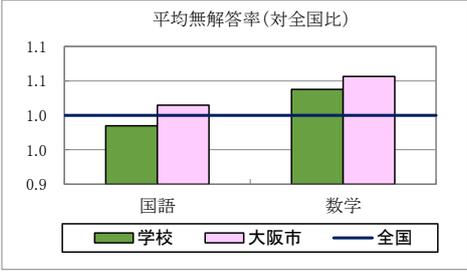
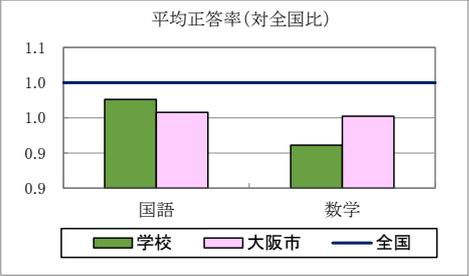
令和7年度 梅香中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	53	44
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	6.6	11.0
大阪市	6.8	11.2
全国	6.7	10.6

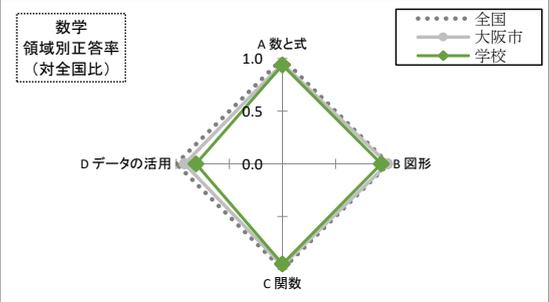
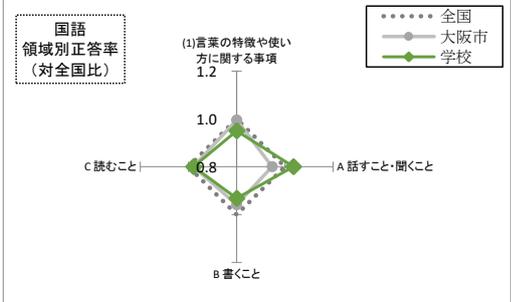
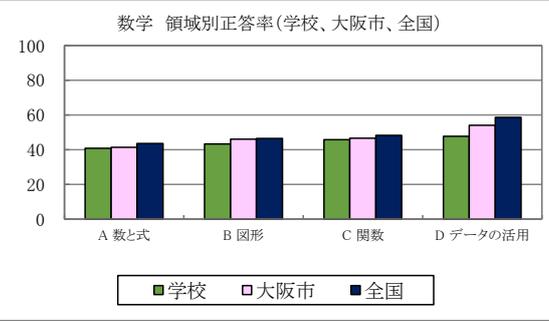
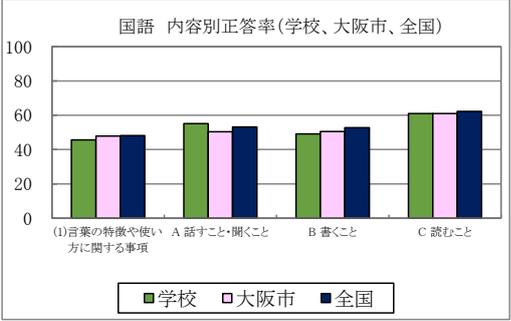


【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	45.7	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	55.1	50.4	53.2
B 書くこと	5	49.2	50.6	52.8
C 読むこと	3	61.0	61.0	62.3

【 数 学 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	40.8	41.4	43.5
B 図形	4	43.3	46.1	46.5
C 関数	3	45.8	46.6	48.2
D データの活用	3	47.7	54.0	58.6

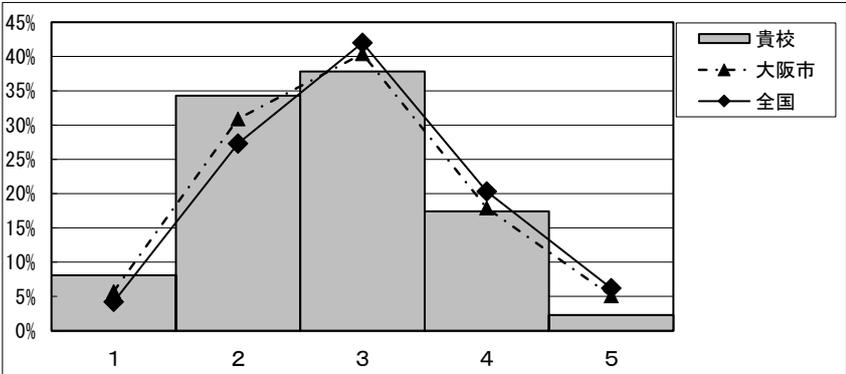
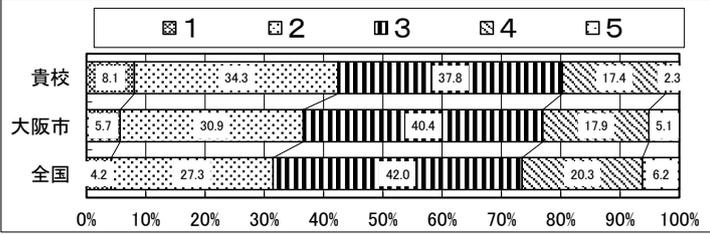


令和7年度 梅香中学校のあゆみ
 —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理科】

	平均IRTスコア
学校	469
大阪市	489
全国	503



令和7年度 梅香中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

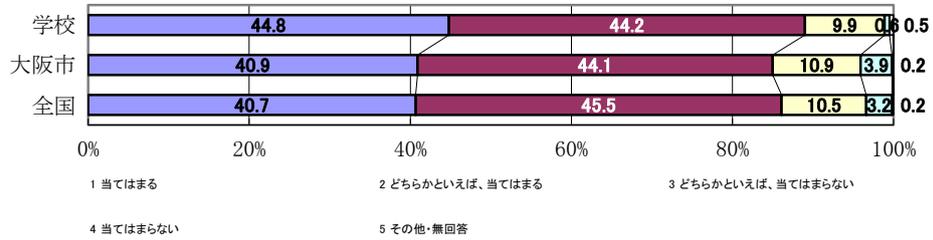
生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

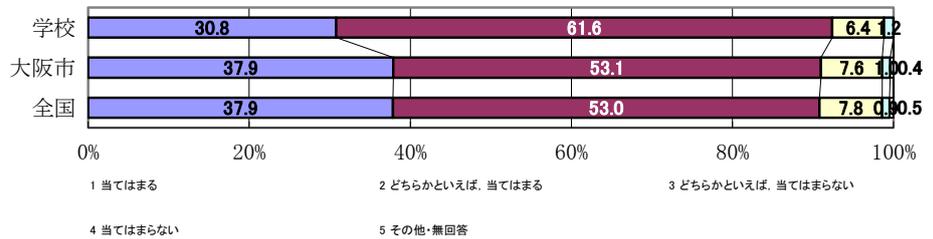
5

自分には、よいところがあると思いますか



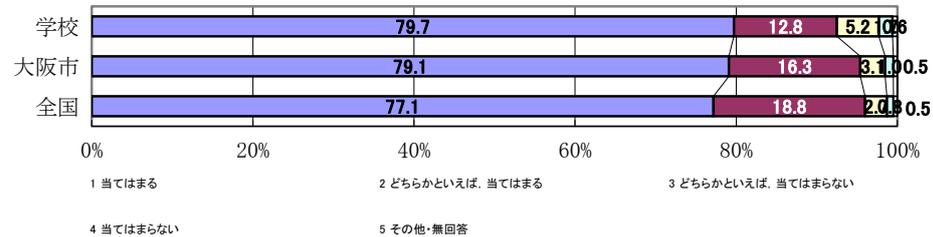
8

人が困っているときは、進んで助けていますか



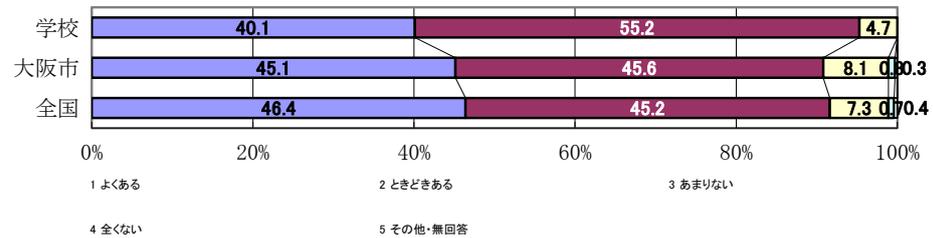
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



15

普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



22

あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか(一般の雑誌、新聞、教科書は除く)

